事務所長からのメッセージ

- 10 月 1 日に発表しました道北地方の金融経済概況（道北地区）（10 月）では、景気の基調的な判断を、前月の「引続き厳しい状況にあるが、極めて緩やかな持ち直しの動きが続いている」から、「横ばい圏内の動きとなっている」に若干下方修正しました。
- 平成 18 年 8 月公表分の金融経済概況以来続いていた「緩やかな持ち直しの動き」が徐々に緩慢となってきましたので、本年 9 月に「極めて緩やかな持ち直しの動き」としましたが、この 10 月にはさらに半歩進めて「横ばい圏内の動き」と判断することにしました。
- このように判断した背景にはさまざまな要因がありますが、一つの要因として、10 月 1 日に発表しました企業短期経済観測調査（道北地区）（9 月調査）結果があります。業種によって程度の差はありますが、全体として企業の業況感が幾分慎重化していることが確認されました。
- また、月による振れはもちろんありますが、国、道、市町村ともに、予算規模が縮小していますから、年度でみた公共投資は減少傾向にあると判断してよいでしょう。住宅投資面では、改正建築基準法施行に伴い、当面は弱めに推移するとみておくべきでしょう。また、個人消費も、均してみれば横ばい圏内と捉えておくべきでしょう。
- こうした中、これまで道北景気持ち直しの牽引役であった、製造業の道外向け出荷の状況、空港利用客数に象徴される観光産業の活況に、全体として一服感がみられます。
- わが国全体の景気が緩やかに拡大を続けている中で、道内の景気は既に「横ばい圏内の動き」となっています。こうした中、道北地方の景気も、道内全体の動きにさや寄せされるかたちで「横ばい圏内の動き」になったと判断しています。
- 道北経済を取り巻く環境には引続き厳しいものがありますが、こうした中で、創意工夫を凝らし、官公需のみに依存しない経営を心がけ、道内のみならず道外や海外向けの出荷を積極化している企業がいくつもあります。また、旭山動物園の活況を原動力として、いかに地域の活性化に繋げていくか真剣に考えておられている方々もいます。北海道に開拓の鍬が入って 100 年。今こそ、開拓時代から受け継いだパイオニア精神を発揮して、新たなフロンティアをきり拓いていこうではありませんか。

平成 19 年 10 月 1 日